

大 学 院 園 芸 学 研 究 科
環 境 園 芸 学 専 攻
(博 士 後 期 課 程)

**Graduate School of Horticulture
Division of Environmental Horticulture
(Doctoral Program)**

平成 28 年 10 月入学 秋期学生募集要項・進学者選考要項

平成 29 年 4 月入学 学生募集要項・進学者選考要項

Student Application Requirements

2 0 1 6 / 2 0 1 7

千 葉 大 学
Chiba University

大学院園芸学研究科（博士後期課程）
平成28年10月入学及び平成29年4月入学 試験実施日程

	資格認定受付	願書受付	学力検査 口頭試問 等	合格発表
平成28年 10月入学	5月31日(火) ～6月2日(木)	6月21日(火) ～23日(木)	8月23日(火)	9月2日(金)
平成29年 4月入学				

Graduate School of Horticulture (Doctoral Program)
2016 and 2017 Admission Schedule

	Application for Qualification	Application for Admission	Examinations	Announcement of Exam. Result
for enrollment in October 2016	May 31 (Tue.) - June 2 (Thu.)	June 21 (Tue.) - 23 (Thu.)	August 23 (Tue.)	September 2 (Fri.)
for enrollment in April 2017				

1 専攻及び募集人員

専攻名	コース名	募集人員	
		平成28年10月入学	平成29年4月入学
環境園芸学専攻	生物資源科学コース	若干名	18名
	緑地環境学コース		
	食料資源経済学コース		

注1.「募集人員」には、本学大学院博士前期課程（修士）からの進学者（博士前期課程修了見込み者で引き続き博士後期課程に進む者）も含まれます。

注2. 園芸学研究科博士後期課程の志望者は、あらかじめ志望する担当教員に教育研究内容等について問い合わせのうえ、出願してください。

2 出願資格

次の（1）～（8）のいずれかに該当する者

注意：以下の（1）～（8）の中に※の付いた年月の平成29年3月は平成29年4月入学の場合であり、平成28年10月入学の場合の年月は平成28年9月になります。

- （1） 修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成29年3月※に修士の学位又は専門職学位を取得見込みの者
- （2） 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月※までに授与される見込みの者
- （3） 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月※までに授与される見込みの者
- （4） 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月※までに授与される見込みの者
- （5） 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月※までに授与される見込みの者
- （6） 外国の学校、上記出願資格（4）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び平成29年3月※までに認められる見込みの者で、本研究科において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- （7） 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - ① 大学を卒業した後、大学、研究所等において、2年以上の研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

② 外国において学校教育における16年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上の研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

(8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したものと及び平成29年3月*までに24歳に達するもの

(注) 出願資格(5)～(8)については、16ページ「出願資格の認定手続きについて」を参照してください。

3 願書受付期間

期 間 平成28年6月21日(火)から平成28年6月23日(木)まで

郵送による場合は簡易書留郵便としてください。

[郵送については平成28年6月23日(木)16時までに必着とします。]

ただし、出願資格(5)～(8)により出願資格の認定を申請する者は、16ページ「出願資格の認定手続きについて」を参照してください。

受付時間 9時00分～11時30分、13時30分～16時30分まで

受付場所 千葉大学園芸学部

なお、書類が不備の場合は受理できないことがあります。日本国外から直接出願する場合は、あらかじめ園芸学部学務係へ連絡のうえ提出してください。

4 出願手続き

出願しようとする者は、次の書類を取りそろえ、所定の期日までに提出してください。(外国人志願者は、以下の出願書類を英語で作成しても差し支えありません。)

(1) 出願書類等

出 願 書 類	注 意 事 項 等
①入学(進学)願書・写真票・受験票	本学所定の用紙
②修士課程成績証明書	出身大学の学長(研究科長)が作成したもの。
③修士課程修了証明書又は修了見込証明書	出身大学の学長(研究科長)が作成したもの。修了見込みの者は、修了後「修了証明書」を提出してください。
④修士の学位論文等(進学志願者はイを提出する。)	ア 修士の学位を有する者は、学位論文の写し及びその要旨(本学所定の様式により2,000字以内) イ ア以外の者は研究経過報告書(本学所定の様式により2,000字以内)及びそれ以外に研究発表等の資料があれば研究業績調書(本学所定の様式による)を添付してください。
⑤研究計画書	本学所定の様式に記入してください。

出 願 書 類	注 意 事 項 等
⑥検定料 30,000円 (注) 進学志願者及び現在国費外国人留学生の者は、検定料は不要です。	●日本国内在住の志願者 出願前に最寄の銀行等（ゆうちょ銀行は除く）に行き、本募集要項の所定用紙（振込依頼書）を使い、検定料30,000円を必ず窓口（現金自動預払機使用不可）で振り込んでください。振込み方法は電信扱い、振込手数料は本人負担となります。 入学願書の裏に入学検定料の振込証明書を貼ってください。 なお、証明書に取り扱い金融機関出納印がないものは無効となりますので、金融機関で受領した際に必ず確認してください。 願書を持参する場合でも、検定料は振り込んでください。 ●海外在住の志願者 募集要項添付の検定料振込用紙は、日本国外の銀行等では使用できません。日本国内に知人等がいない場合には、クレジットカード決済により、以下のとおり手続きを行ってください。 ① 千葉大学ホームページ（http://www.chiba-u.jp）の＜入試案内＞にアクセスし、＜海外からの検定料支払い＞より検定料払込手続きを行ってください。 （https://www.kentei.chiba-u.jp） ②検定料の払込手続終了後、千葉大学より申込内容確認のメールが送信されます。内容確認後、そのメールの文面を印刷して、出願書類に同封してください。 注1. 入学願書の裏面にある「振込証明書貼り付け欄」の「クレジットカード決済」欄にチェックを入れてください。 注2. クレジットカードによる検定料の払込受付開始は、平成28年6月2日（木）からになります。 なお、出願書類を提出する前に払込手続をしてください。 注3. 利用できるクレジットカードの種類については、検定料払込手続の際にホームページで必ず確認してください。 海外からの検定料払込方法は、クレジットカード決済のみとなります。海外の銀行からの振込送金による払込はできません。クレジットカード決済による払込ができない場合は、園芸学部学務係まで連絡してください。
⑦写真3枚	出願前3ヶ月以内に上半身・正面向き・脱帽で撮影したものを、入学願書・写真票・受験票の写真欄に貼ってください。（縦4cm×横3cm）
⑧返信用封筒3枚 ・受験票等在中（①） ・合格通知書在中（②） ・入学手続書類在中（③）	本要項に添付の返信用封筒3枚（①，②，③）を提出してください。封筒にはそれぞれ志願者の住所、氏名及び郵便番号を明記し、「受験票等在中」（①）には郵便切手372円分の切手を貼ってください。 「合格通知書在中」（②），「入学手続書類在中」（③）には切手を貼る必要はありません。

出 願 書 類	注 意 事 項 等
⑨その他	在職のまま在学しようとする者は、所属長の受験許可書（本学所定の様式による）を提出することが望めます。
外国人志願者は、上記提出書類のほか下記の書類を提出してください。	
①外国人留学生履歴書	本学所定の用紙
②住民票の写し	市区町村発行のもの（在留資格・在留期間の記載したもの）。登録していない場合は、パスポートの写しを提出してください。（本人の氏名、生年月日、性別、在留資格を表示する部分及び日本国査証の部分）

（２）試験当日必要な書類

試験当日必要な書類	注 意 事 項 等
TOEIC の公式認定証、TOEFL 受験者用スコア票、または IELTS の公式成績証明書の 原本と写し (注) ただし、外国の大学を卒業した国費外国人留学生は提出不要です。	口頭試問の際に 原本 を確認し、 写し を提出していただきます。 なお、千葉大学の出身者のみ、千葉大学で実施された TOEIC-IP、TOEFL-ITP のスコアも認めます。 TOEIC、TOEFL、IELTS いずれも、平成26年8月以降に受験した公式認定証、受験者用スコア票が有効となります。

5 選抜方法及び期日

○ 一般志願者及び進学者

（１）選抜方法

入学者の選抜は学力検査及び成績証明書を総合して行います。

（２）学力検査

- ・ 英 語（TOEIC 等スコア）
- ・ 口頭試問 修士学位論文及び研究計画書等について行います。

修士学位論文及び研究計画等のプレゼンテーション※	10分
質疑応答	20分
合計	30分

※プレゼンテーションの形式は、パワーポイント、ボードなど自由です。

パワーポイントを用いる場合、使用可能なPC プロジェクターおよびWindows のPC は会場に準備してあります。ただし、会場のPC の仕様はWindows8、ソフトはMicrosoft Office 2013 のWord/Excel/Power Point となるので、USB メモリ等を利用する場合、あらかじめ互換性の確認を行っておいてください。（注：発表には自分のPC を持参して使用しても構いません。）

（３）合否判定基準

著しく得点の低い科目が1科目でもある場合には、総合点にかかわらず不合格とすることがあります。

(4) 学力検査等日時

期 日	学力検査等科目	時 間
平成28年8月23日(火)	口頭試問・TOEIC等スコア表の 確認※	10時00分～

※口頭試問の際に、TOEICの公式認定証、またはTOEFL等の受験者用スコア票の原本を確認し、写しを提出していただきます。忘れずに持参してください。

ただし、外国の大学を卒業した国費外国人留学生は提出不要です。

(5) 学力検査の場所

千葉大学園芸学部で行います。

6 注意事項

- (1) 学力検査に必要な事項を平成28年8月22日(月)10時に園芸学部掲示板に掲示します。
(遠方等で前日来られない方は、試験当日、早めに来校し、掲示板で内容を確認してください。)
- (2) 試験時間中は必ず受験票を携行してください。
- (3) 出願手続き後の提出書類の内容変更は認めません。
- (4) 受理した出願書類はいかなる理由があっても返却しません。
- (5) いったん納入した検定料はいかなる理由があっても返還しません。ただし、検定料を誤って振込み、出願しなかった者が平成29年3月31日(金)までに所定の返還手続きを行った場合は、検定料の全額を返還します。詳細については園芸学部学務係に確認してください。
- (6) 入学者選抜の過程で収集した個人情報が入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。
- (7) 志願票等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても許可を取り消すことがあります。

7 合格者発表

日 時 平成28年9月2日(金)13時(予定)

場 所 園芸学部掲示板に掲示します。

注 意 合格発表後、合格者には、合格通知書を速達・簡易書留郵便で郵送します。電話やメールでの問い合わせは、本人でも回答致しかねますのでご了承願います。

8 入学手続

合格者は、下記の期日に本学へ直接出向いて入学手続を行ってください。入学手続を行わないと入学を辞退したものと見なしますので、十分注意してください。

(1) 入学手続日

平成29年 4月入学の場合：平成29年3月26日（日）から平成29年3月27日（月）まで
（入学手続書類は平成29年2月下旬頃に送付します。）

平成28年10月入学の場合：平成28年9月9日（金）
（入学手続書類は合格通知書と一緒に送付します。）

(2) 入学（進学）時に要する経費等

①入 学 料 282,000円（進学者は不要）

②授 業 料

【4月入学者の場合】

入学後の前期分授業料は5月に、後期分授業料は10月に口座引落しにより納入願います。口座引落し手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ260,400円（年額520,800円）です。また、入学して2年目から、前期分授業料は4月が口座引落しの月となります。

【10月入学者の場合】

入学後の後期分授業料は11月に、前期分授業料は4月に口座引落しにより納入願います。口座引落し手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ260,400円（年額520,800円）です。また、入学して2年目から、後期分授業料は10月が口座引落しの月となります。

（なお、授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新授業料等が適用されます。）

（注）入学料及び授業料が免除される制度があります。詳細は、千葉大学ホームページ

（<http://www.chiba-u.ac.jp/student/payment/exemption/index.html>）をご覧ください。

入学料及び授業料免除に関する問い合わせ先

学務部学生支援課 電話 043-290-2178

③学生保健互助会費 6,000円（3年分） 全員加入（郵便局または、ゆうちょ銀行で払込）
（疾病負傷の際に相互に救済し、進んで健康保持に寄与することを目的としております。）

④学生教育研究災害傷害保険料 3,620円（3年分） 全員加入（郵便局または、ゆうちょ銀行で払込）
（正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。）

9 昼夜開講制について

大学院園芸学研究科博士後期課程では、教育上特別の必要があると認めるときは夜間その他の時間又は適切な時期に講義を聴講し、研究を行うことができます。

希望者は、事前に希望する指導教員に照会しておいてください。また、その旨願書に明記してください。

10 早期修了について

博士後期課程の修了要件は3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、論文の審査及び最終試験に合格することとなりますが、在学中、優れた業績を上げた者については1年間で修了できます。ただし、博士前期課程を早期修了した場合には、博士後期課程は2年間で修了となります。

11 長期履修学生制度について

職業を有している等の社会人学生で、1年間または1学期間に修得可能な単位数や研究指導を受ける時間が制限されるため、本研究科の標準修業年限（後期課程は3年間）を超えて在学しなければ課程を修了することができないと考える者に対して、申請に基づき、大学が審査し、最長6年間の修業年限で在学し、計画的に課程を修了することにより学位の取得を認める制度です。ただし、長期履修学生として認められた期間の授業料は、標準修業年限の3年間（6学期）の総額を在学学期で除した額を分割して支払うことになります。

12 入学試験に係る個人情報の提供について

本試験に関する個人情報の提供については、平成29年5月1日（月）から平成29年7月31日（月）までの間、受験者本人からの申し出により情報の提供を行います。なお、その際には受験票が必要となりますので、大切に保管しておいてください。

13 書類の提出、問い合わせ先

〒271-8510 千葉県松戸市松戸648

千葉大学園芸学部学務係

電話：047-308-8712, 8714

電子メール：engei-daigakuin@office.chiba-u.jp

園芸学研究科ホームページ：<http://www.h.chiba-u.jp/>

出願資格の認定手続きについて

2, 4 ページの出願資格 (5) ~ (8) に該当する者の認定を次のとおり行います。

(1) 提出書類

提出書類	注意事項等
①入学試験出願資格認定申請書	本学所定の用紙
②研究業績調書	本学所定の用紙
③成績証明書	最終出身学校の長が作成したもの。
④卒業証明書	最終出身学校の長が作成したもの。
⑤推薦書	有職者の場合にあっては、本人を熟知し職場において指導的立場にある者が作成したものであってもよい。その他の場合は自己推薦書でもよい。様式は任意とします。
⑥その他	審査に参考となるもの (学術論文及びそれに相当するもの)。

- ・出願資格 (5) ~ (8) に該当する者は、出願前にあらかじめ園芸学部学務係へ問い合わせてください。
- ・本研究科が必要と判断した場合、研究経過証明書等の書類の提出を求めることがあります。

(2) 提出期間

平成28年5月31日 (火) から平成28年6月2日 (木) まで

受付時間は9時00分~11時30分, 13時30分~16時30分まで

なお、郵送の場合は簡易書留郵便としてください。郵送については平成28年6月2日 (木) 16時まで必着とします。

(3) 認定の結果は、本人宛に通知します。

(4) 入学者選抜

平成28年8月23日 (火) に実施する学力検査科目、検査日時等すべて一般出願者と同様に行います。

(5) 書類の提出、問い合わせ先

〒271-8510 千葉県松戸市松戸648

千葉大学園芸学部学務係

電話：047-308-8712, 8714

電子メール：engei-daigakuin@office.chiba-u.jp

千葉大学大学院園芸学研究科の求める入学者

千葉大学大学院園芸学研究科は「食と緑」に関する課題に対して、国際的な幅広い視野から教育研究を行っています。博士前期課程では、専門分野の学識を深化させ、高度の専門性を有する職業人や研究者に必要な能力を身につけられる人を求めています。博士後期課程では、専門分野の更に深い学識の蓄積と学際的・総合的視野を涵養し、自立した研究者あるいは研究・行政等の組織統括者に必要な能力を身につけられる人を求めています。

コース	領域	アドミッションポリシー
生物資源科学	栽培・育種学	園芸植物，薬草，機能性植物などの栽培に関する最先端の知識・技術や，それらの品種改良や遺伝子操作などに強い興味があり，この領域の実践的技術や知識を修得し，国内外の産業界で活躍する強い意志を持っている学生を求めています。
	生物生産環境学	資源植物の生産に関わる環境分野に強い興味を持ち，高度の専門知識，理論，技術の習得と開発に意欲的に取り組める学生を求めています。
	応用生命化学	人類の持続的発展に貢献することに意欲を持ち，植物，動物及び微生物などの生命の仕組みや多様な機能を分子，細胞および個体レベルで探求すること，さらにその知識や理論を社会に役立てることなどに情熱をもつ学生を求めています。
緑地環境学	環境造園学	自然と共生する生活環境を安全かつ美しく構成・管理できる理論と技術を学ぶことに関心をもち，快適な緑地空間の確保と再生，持続可能な環境の計画・設計・マネジメントという社会的課題に取り組む意欲ある学生を求めています。
	緑地科学	緑地に関する自然科学的アプローチに関心があり，それを生かした専門技術者や研究者を志望する学生を求めています。
	環境健康学	全ての人を対象とした生活の質（QOL）の向上やストレス緩和，および人と環境のより良い関係の構築等の福祉や健康に関する課題に対して，園芸や緑地に関する知識や技術に加え，医学，薬学，福祉，教育等の観点から取り組むことに強い関心をもち，これらの知識を深め，その成果を社会に還元することに意欲のある学生を求めています。
食料資源経済学	食料資源経済学	国際化した現代社会におけるフードシステムおよび農村資源・環境の社会経済的な役割と意義について学び，学理を追求するとともに，社会のあり方と個人の役割を考え，専門的知識を生かして積極的に行動できる学生を求めています。

園芸学研究科博士後期課程・研究指導教員

園芸学研究科博士後期課程における研究指導教員及び研究テーマを示してあります。さらに詳しい研究内容等は園芸学部・園芸学研究科のホームページ(<http://www.h.chiba-u.jp/>)から確認してください。研究指導は主指導教員と副指導教員の複数の教員により行われます。

千葉大学の概要

千葉大学は、昭和24年5月31日付けで、当時千葉県内にあった千葉医科大学、同大学附属医学専門部及び薬学専門部、千葉師範学校、千葉青年師範学校、東京工業専門学校、千葉農業専門学校の各旧制国立諸学校を包括して、新製の国立総合大学として発足しました。さらに、平成16年4月1日付けで国立大学法人千葉大学が設立され、千葉大学は同法人により運営されることとなりました。

新制国立大学として発足当初の千葉大学は、5学部（学芸学部、医学部、薬学部、工芸学部、園芸学部）と1研究所（腐敗研究所）及び附属図書館からなっていましたが、その後何度かにわたって学部の拡充改組が行われて、現在は、文学部、教育学部、法経学部、理学部、医学部、薬学部、看護学部、工学部、園芸学部の9学部、附属図書館、医学部附属病院の各部局及び各センター等で構成されています。

また、大学院は、学部の教育・研究を基礎として、現在、教育学研究科、看護学研究科、人文社会科学研究科、理学研究科、工学研究科、園芸学研究科、融合科学研究科、医学研究院、薬学研究院、医学薬学府、専門法務研究科により構成されるに至っています。

なお、連合大学院として平成8年度に設置された東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（後期3年の博士課程）に、東京学芸大学、埼玉大学、横浜国立大学とともに参画しています。

また、教育学部に附属して幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校が置かれています。

千葉大学のキャンパスは、西千葉、亥鼻及び松戸・柏の葉の3地区に分かれています。西千葉地区がメインキャンパスで、総武線西千葉駅前の39万m²に及ぶ敷地に大部分の学部と施設が置かれています。

亥鼻地区は千葉市中央区亥鼻の台地に医学部、看護学部及び医学部附属病院等が、松戸・柏の葉地区は松戸市及び柏市にあり、園芸学部及び環境健康フィールド科学センター等が置かれています。

千葉大学自然科学系研究科アソシエーション

千葉大学自然科学系研究科アソシエーション（AGSST）は園芸学研究科と融合科学研究科、理学研究科、工学研究科の4研究科からなる大学院連携体です。4研究科は独立した大学院として、その分野の専門性をより高めた教育と研究を実施します。現在の高度化した科学と技術をさらに発展させるには、専門研究科における先端的専門教育だけでは十分ではありません。そのためにAGSSTでは、皆さんが他の専門領域の学習を進めやすいように、4研究科間に共通の授業科目を設けています。また、指導教員との相談だけで、他の研究科の授業科目を履修できる「推奨科目」を導入して、異分野の教育を受けやすくしています。更に、AGSSTでは研究科間での連携・共同研究を奨励・促進しています。それらの共同研究を通じて、皆さんの特別研究と特別演習においても、自ずと異なる専門分野の教員あるいは学生との交流が生まれ、皆さんの視野を広げることができます。AGSSTで高度の専門を修得すると同時に、異分野への見方と基礎把握力を身につけて、世界で大いに活躍してください。

生物資源科学コース
栽培・育種学領域
栽培学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 三 吉 一 光	切り花および鉢物用花卉の生殖・種子生物学的ならびに育種学的な研究を行う。さらに、無病植物の生産を行うために必要な繁殖学と植物ウイルス学との分野横断的な研究を、園芸的利用と生息域外保全を目的として展開する。 キーワード：花卉園芸学，生殖・種子生物学，品種改良，生息域外保全，ウイルスフリー苗生産，ダリア，ラン科植物，ユリ	
教 授 近 藤 悟	果樹・果実の発育機構と制御について，生理活性物質との関連から検討している。とくにジャスモン酸やアブシシン酸については代謝経路の検討をしている。また，これらの生合成阻害による果樹生理への制御技術を探索している。 キーワード：果樹および果実発育制御，果実発育生理，生理活性物質，機能性物質，活性酸素，環境ストレス耐性	
教 授 磯 田 昭 弘	食用，飼料，工芸作物の生産性を向上させる栽培技術について，圃場レベルでの生理・生態的な観点より確立をめざしている。特に乾燥地における作物の生産性向上とダイズなどのマメ科作物の収量向上が現在の主な研究テーマである。また，有機農業を科学的に解析し，乾燥地域における大規模有機農業の展開も考えている。 キーワード：作物学，収量，乾燥地農業，光合成，乾物生産，植物生理，有機農業，リモートセンシング	
教 授 丸 尾 達	蔬菜（野菜）について種子生産から収穫までの過程について，高収量・低コスト・高効率・高品質・低環境負荷などを実現する近代的栽培システムについて幅広く研究している。 キーワード：野菜，施設栽培，養液栽培，植物工場，苗生産，種子工学，自動化技術，省力化技術，環境負荷軽減，高収量生産，品質向上	
教 授 小 原 均	植物生長調節物質（植物ホルモンや植物生長調整剤）を用いた果樹栽培の省力化および良品多収技術の構築ならびにそれら植物生長調節物質の作用機構について検討している。また，挿し木難発根性果樹の挿し木繁殖技術について検討している。 キーワード：果樹園芸学，高品質果実生産，植物ホルモン，無種子化，挿し木繁殖	環境健康フィールド科学センター所属
准教授 渡 辺 均	花卉，ペチュニア，カリブラコア，ダンギク，交雑親和性，種子発芽，花卉セル成型苗生産，屋上緑化，壁面緑化	環境健康フィールド科学センター所属

育種学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授◎木庭 卓人	栽培植物の重要な農業形質に関する遺伝的変異を育種に有効に利用するため、DNAマーカーの開発や遺伝子の単離・解析を行っている。また、分子細胞遺伝学的手法（FISH、GISH）を利用した染色体解析・核型分析や遺伝子配列の比較による植物間の系統進化について研究を進めている。 キーワード：遺伝育種、細胞遺伝、ゲノム、染色体、遺伝子、DNAマーカー、交雑親和性、核型分析、系統進化	平成30年3月31日 定年退職
教 授 中村 郁郎	育種、作物、園芸植物、起源、種分化、類縁関係、分子進化、遺伝子組換え、遺伝子工学、ストレス抵抗性	
准教授 佐々 英徳	品種改良、分子遺伝、遺伝子組み換え、遺伝子機能解析、花粉・雌ざい相互作用、自家不和合性	
客員教授 小松田 隆夫	植物分子遺伝学および育種学	

生物生産環境学領域

物理環境分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 後藤 英司	環境工学、施設園芸、植物工場、植物生育制御、植物生態生理学、分子農業	
教 授 松岡 延浩	大気と地上生態系のエネルギー交換・物質交換のプロセスを解析に関わる教育・研究を行っている。それらの知見をもとに、農作物や自然植生にとって不利な立地環境を改善する手法の開発を行う。 キーワード：農業気象学、自然災害科学、乾燥地、エネルギー収支、物質収支、生物季節、気象情報	
教 授 椎名 武夫	収穫後青果物の品質管理・保証、園芸分野における環境負荷の低減、健康な食生活を支援する情報提供技術などに関する研究を行う。 キーワード：ポストハーベスト工学、ライフサイクルアセスメント、食品機能性・情報工学	
准教授 小川 幸春	農産工学、食品工学、バイオマス処理、顕微鏡観察、物性計測、化学分析、消化特性評価	

生物環境分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 穴戸 雅宏	植物病害の効果的な防除のために、植物－病原菌生態系の要因と機構に関する研究を行う。 キーワード：植物病原生態学、生物的防除、植物保護、土壌病害、適応防除	
准教授 野村 昌史	害虫および天敵類の生活史や害虫防除に関する研究、DNAなどを用いた昆虫の分子系統解析・種内変異に関する研究、緑地の生物多様性に関わる研究 キーワード：害虫防除、天敵昆虫、生活史、分子系統学、遺伝子解析、種内変異解析、生物多様性	
准教授 宇佐見俊行	植物病原糸状菌の病原性に関する遺伝学的研究、植物病原糸状菌の病原性および諸性質の解明に関する研究 キーワード：植物病理学、植物病原糸状菌、植物保護	
客員教員 岡部 貴美子	行動及び生活史に基づく共生関係の進化に関する研究、土地利用履歴及び景観と生物多様性の保全管理に関する研究 キーワード：寄生生物学、生物間相互作用、害虫防除、生物多様性、生態系保全管理	

化学環境分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 犬伏 和之	土壌中の生元素循環を通して土壌肥沃度の維持・向上を目指す。また、地球環境変動と土壌の相互作用を解明する。 キーワード：土壌環境、循環型社会、土壌汚染、問題土壌の改良	
教 授 中牟田 潔	生物の種内、種間コミュニケーションに関わる化学物質の機能と化学構造を明らかにする。さらにそれら化学物質を利用した生物被害制御技術の開発をめざす。 キーワード：化学生態学、生物間相互作用、信号化学物質、フェロモン、アレロケミカル	平成31年3月31日 定年退職
教 授 坂本 一憲	植物と微生物の共生関係の解明とその利用について研究を行っている。 キーワード：植物栄養学、根圏微生物学、植物と微生物の共生関係、アーバスキュラー菌根菌、根粒菌、微生物肥料・農薬、作物の環境ストレス耐性、土壌の汚染と浄化	
准教授 大和 政秀	植物の地下組織に共生する菌類である菌根菌の生態を理解し、農林業・植物保全などへの活用を目指す研究を行っている。 キーワード：菌類生態学、菌類群集構造解析、菌根共生、アーバスキュラー菌根、ラン菌根、菌従属栄養植物	西千葉キャンパスで 指導
客員教員 野原 精一	環境分析化学、エネルギー循環、大気環境、酸性雨と越境大気汚染、水文現象と観測、水理、水資源、水循環、生物影響、生物指標、自然浄化機能、土壌汚染、土壌環境質の評価、植物の環境指標性、環境診断、流域生態系、流域管理、湿地生態学、自然環境保全技術、自然再生技術評価、有害化学物質、残留性農薬と生物濃縮、環境同位体、水文地形学手法（HGM）、生物生息地評価（HEP）	

応用生命化学領域

生命分子化学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 西 田 芳 弘	糖鎖工学、糖化学、生物機能化学、有機構造学、生物有機化学、生物毒素化学、感染症診断	
教 授 児 玉 浩 明	転写後遺伝子発現抑制、RNA 干渉、好熱菌発酵産物、腸内細菌	西千葉キャンパスで指導
准教授 渡 辺 正 巳	植物代謝生理学、プログラム細胞死、万能細胞化、炭素代謝、窒素代謝、細胞培養、メタボローム	西千葉キャンパスで指導
准教授 土 肥 博 史	生命機能分子、糖質科学、糖鎖合成、有機構造化学、生物有機化学、糖質関連酵素	西千葉キャンパスで指導

生物資源化学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 江 頭 祐 嘉 合	食品化学、食品機能学、栄養生化学、分子栄養学、トリプトファン代謝、脂質代謝、食物繊維、抗炎症、培養細胞・動物を用いた食品の機能性評価、DNAマイクロアレイ	
教 授 天 知 誠 吾	環境微生物学、応用微生物学、食品微生物学、重金属汚染、放射性核種、ヨウ素と微生物、乳酸菌、耐酸性、殺菌技術	
准教授 高 橋 広 夫	バイオインフォマティクス、データマイニング、機械学習、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、個別化医療	西千葉キャンパスで指導
准教授 華 岡 光 正	植物分子生物学、葉緑体、光合成、色素体分化、遺伝子発現、環境応答、生物時計、転写因子、細胞内シグナル伝達	西千葉キャンパスで指導

緑地環境学コース
環境造園学領域
環境造園計画学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 木下 勇	都市計画，農村計画，空間計画（地域計画），市民参加，まちづくり，持続可能性，生活/遊び/空間/時間，オープンスペース，環境教育，ワークショップ，NPO，パートナーシップ，エリアマネジメント	
教授 古谷 勝則	自然環境の保全と利活用，緑地計画，環境教育，自然体験活動，技術者教育，エコツーリズム，造園学原論，歴史，風景論，国際比較，生態系サービス，里山，自然公園，都市緑地	
准教授 齋藤 雪彦	都市計画，農村計画，地域計画，都市オープンスペース，生活空間，集落，ツーリズム，景観，レクリエーション，土地利用・管理，地域づくり	
客員教員 重岡 徹	農村地域における社会的空間の再編成	

環境造園デザイン学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 池邊このみ	国土政策，都市デザイン，景観まちづくり，地域文化・風土，歴史まちづくり，文化的景観，社会貢献と緑地	
教 授 三谷 徹	庭園デザイン，ランドスケープ，近代視覚美術，近代空間論，空間設計手法，空間，風景論	
教 授 章 俊華	緑地環境科学，ランドスケープデザイン，緑地環境文化，緑地空間表現方法	
准教授 木下 剛	公園デザイン，公園再生，環境施設の設計，海外のグリーンスペース政策，ランドスケープ遺産，東アジア	

環境造園管理学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
准教授 柳井 重人	緑地環境管理，緑地保全，都市緑化，緑のまちづくり，緑地機能解析，緑地環境評価	
准教授 秋田 典子	土地利用計画，土地利用マネジメント，環境ガバナンス，景観管理，アセスメント，復興とレジリエンス	

緑地科学領域

緑地環境システム学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 唐 常源	流域生態水文学，水循環，地球化学，物質循環，同位体，森林，SPAC，湿地の自然浄化，土壌・地下水汚染	
教 授 本條 毅	環境情報学，都市熱環境，微気象学，コンピュータグラフィックス，植物モデリング，生物環境工学	
准教授 梅木 清	森林動態，樹木生態，野外調査，機能的・構造的樹木モデル，コンピュータシミュレーション	

緑地環境資源学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 小林 達明	生態的再生，里山管理，湿地再生管理，緑化，砂漠化対策	
准教授 高橋 輝昌	緑地生態系，緑地土壌，土壌生物，土壌改良，物質循環，緑地造成・管理，リサイクル緑化	
准教授 上原 浩一	進化系統学，分子系統，分子生態，形態形成，生物多様性，環境保全，陸上植物	
准教授 百原 新	植生史学，環境考古学，第四紀学，気候変動，生物進化，植生変遷，水湿地，自然再生	

環境健康学領域

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 宮崎 良文	自然セラピー，森林医学，花き，公園，森林，生理的リラックス効果，予防医学，脳活動，自律神経活動，ストレスホルモン，個人差	環境健康フィールド科学センター所属 (主に柏の葉キャンパスで指導)
准教授 岩崎 寛	緑地福祉，園芸療法，森林療法，アロマセラピー，病院緑化，緑地の生理・心理的効果	

食料資源経済学コース
食料資源経済学領域
フードシステム学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 櫻井 清一	農産物流通，フードシステム，マーケティング，関係性，農村多角化，社会関係資本	
准教授 西山 未真	農村社会，地域の持続的発展，地域資源管理，主体形成，ライフスタイル，フードシステム	

資源環境経済学分野

氏 名	研究テーマ（キーワード）	備 考
教 授 大江 靖雄	農業の多面的機能，農村ツーリズム，農業経営の多角化，農村資源環境政策，イタリア農村開発，農村経済学，観光経済学	
教 授 高垣美智子	熱帯農業，東南アジア，栽培様式，在来野菜，エンサイ，フードマイレージ，ライフサイクルアセスメント	
教 授 小林 弘明	農業政策の経済効果，農産物貿易，タイの食料農業政策，バイオマスエネルギーの経済性，計量分析	
教 授 栗原 伸一	政策評価，地域計画，食品安全性，社会保障，地方財政，統計学	
准教授 丸山 敦史	選好分析，非市場財，環境便益評価，食品リスク，不確実性，費用便益，農家行動，技術選択，生産効率性，統計的因果律，応用計量経済学	

○印は平成 31 年 3 月 31 日で定年退職となる教員です。

◎印は平成 30 年 3 月 31 日で定年退職となる教員です。